



広島大学歯学部

歯科衛生士教育研修センター主催

第3回
Web開催

2024年度 前期 リカレント研修会

「こどもの定期健診におけるチェックポイントと 口腔機能発達不全症の管理」

LIVE配信：2024年7月18日(木) 19:00～20:30

オンデマンド配信（録画視聴）：2024年7月26日(金)～2024年8月4日(日)



講演内容

- ・ こどもの年齢に応じた定期健診における診査や指導のポイント
- ・ 口腔機能発達不全症の診断と管理

広島大学大学院 医系科学研究科
小児歯科学
助教 岩本 優子 先生

講演の要約

産まれてから小学校を卒業するまでの約12年間は、20本の乳歯が萌出と脱落し、さらに28本の永久歯が萌出するという、歯だけに着目してもとても変化の大きな時期です。身体や心の発達も著しく、さらに個人差もあります。「小児歯科」としての役割は、う蝕や歯肉炎などの予防に力を入れるだけでなく、成長を見守るなかで、異常にいち早く気づき、適切な時期に対応することで、口腔からよりよい心身の成長を導くことだと考えています。そのためには、年齢や発達段階に応じて、診査すべきポイントを心得ておき、その時点の口腔内の状況だけでなく、成長や変化を診ていく必要があります。

予防目的に歯科への通院を希望する小児の割合は増加し、小児の定期健診や口腔内管理に力を入れる歯科医院も増えているように思います。講演では、いつもの健診の際に、なにを診てどう指導をしていくべきか、そのよりどころとなるポイントを年齢ごとにお示しできたらと思っています。また、令和6年度の歯科診療報酬改定により新設される、「歯科口腔リハビリテーション料3」や歯科衛生士実地指導における「口腔機能指導加算」の対象となる、口腔機能発達不全症の診断や管理についても触れたいと考えています。